

ドングリの木の下で

園庭に、一本のドングリの木があります。「ツピー ツピー」とシジュウカラがよく遊びに来ます。その木に、今年も緑色のドングリがたくさんできて、いくつか地面にも落ちるようになりました。もうすっかり秋です。

先週のことです。そのまだ時々しか落ちてこないドングリを見つけた男の子が大喜びで、見せにきました。「これ、ドングリのかぶりもの！」とドングリの丸い帽子を見つけてとてもうれしそうです。「昨日も落ちてたよ。」と別の子が教えてくれます。子どもたちは、本当によく見えています。

すると担任の先生が、ドングリの木の下にテーブルを出し、ドングリの図鑑を持ってきて、そのテーブルの上に広げました。さっそく子どもたちが集まってきて、ドングリの図鑑をのぞきこみます。ページをめくっていくと、ドングリで人の顔を作った作品が載っていました。「あっ、これ あつこ先生だ。」「これは いくみ先生！」と大喜びです。

その子どもたちの様子を見ていた担任の先生は、今度は、細長く広げた段ボールを持ってきました。それをテーブルに斜めに立てかけると、子どもたちがそこでドングリを転がして遊び始めました。さらに先生は、段ボールの下の方にプラスチックのカップをいくつか置きました。するとそのカップにドングリを転がして入れる遊びが始まりました。遊びがだんだん高度にそして面白いものになっていきます。少したつと、さらに途中に丸い筒を置いたり、割り箸をつけたりして、ドングリの転がり方はさらに複雑になっていきます。「もっとおもしろくできないかな?」「こうやったらおもしろくなりそう!」と子どもたちは試行錯誤と工夫を繰り返していきます。そしていつの間にかピンボールのようなドングリのゲーム盤ができました。

幼稚園教育要領解説には「思考力の芽生えは、周囲の環境に好奇心をもって積極的に関わりながら、新たな発見をしたり、もっと面白くなる方法を考えたりする中で育まれていく」と書かれています。

しかし、そこで学びが生まれるかどうかは、子どものそばにいる大人が、その場の一瞬の子ども心の動きや興味関心を見逃さないで、言葉をかけたり、手を差し伸べたりすることができるかどうかにかかっています。教育の難しさ面白さはそこにあると思います。

そして帰りの時間、保育室からは、先生のピアノに合わせて「どんぐり ころころ どんぶりこ ♪♪♪」と子どもたちが歌う声が聞こえてきました。秋も楽しいことがいっぱいありそうです。

